

自律的に学ぶ子の育成 ～メタ認知を働かせた「学びの調整」～



1 本校の研究について



「自律的に学ぶ子」ってどんな子だろう？

発表をする子？ 粘り強く取り組む子？
う～ん…。

「自律的に学ぶ子」と言っても、人によってそのイメージはそれぞれ違いますよね。

そこで本校では、卒業するまでにこうなってほしいなという「自律的に学ぶ姿」を教員で出し合い、教科ごとに具体的な姿にしてみました！

研究紀要の
P.52～55
ご覧ください



パチパチ



なるほど～。
その「自律的に学ぶ子」って
どうやって育てるの？

よくぞ聞いてくれました！
本校が目指したのは「メタ認知」です。



これは自分の学びを見直したり、ゴールに向けて具体的な方法を考えたりする力です。

この力を各教科で働かせることによって自律的に学ぶことができるのではないかと考えました。

研究紀要の
P.3
ご覧ください

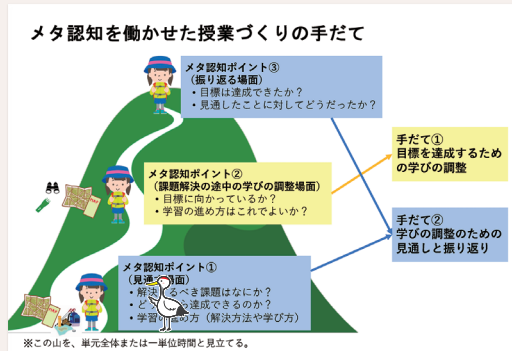


プランニングとモニタリングを利用して各教科に働かせるとなるほど～。

では、具体的にどのように授業をつくっているの？

そうですね、ここにたどり着くまで、教員同士でたくさん話し合ってきました…。失礼しました。具体的な授業の作り方ですよね。

単元全体、または一単位時間において、3つのメタ認知を働かせる場面を次の図のように設定しました。



- ①見通す場面
- ②課題解決の途中の学びの調整場面
- ③振り返る場面

このそれぞれの場面で、どのような手だてを講じていけばよいのか研究をしてきたんです！

研究紀要の
P.44～51
ご覧ください



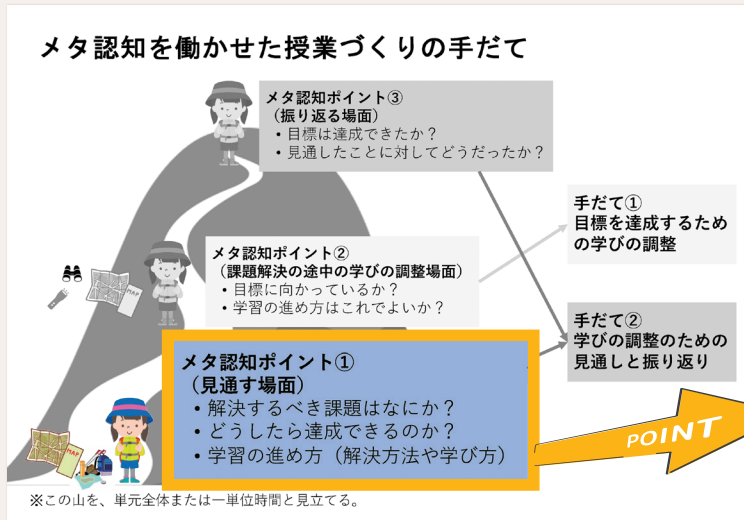
パチパチ

次のページで、それぞれの場面でのポイントをご説明します。



2 メタ認知を働かせた授業づくりの手だて

① 見通す場面

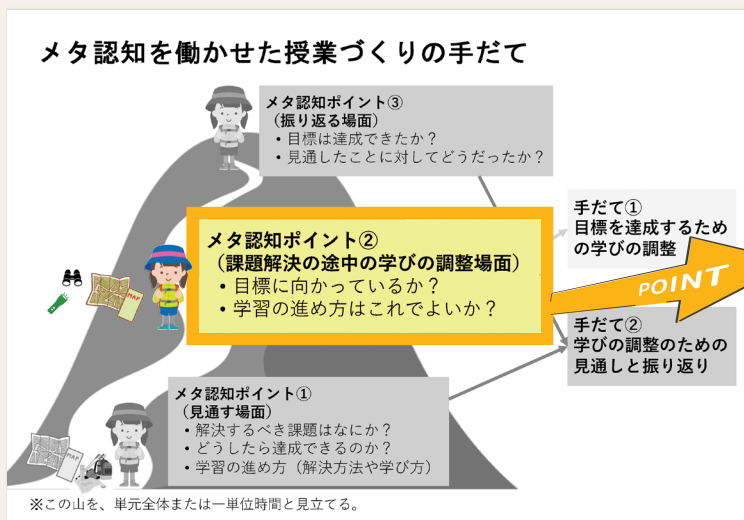


見通しのポイント



- **学びの必然性**
やってみよう。解決したい。
- **現状把握**
試しにやってみたり、前時の振り返りをしたりすることで、自分の学習状況を把握する。
- **解決方法の見通し**
既習事項を生かして、ゴールまでの道筋を考える。

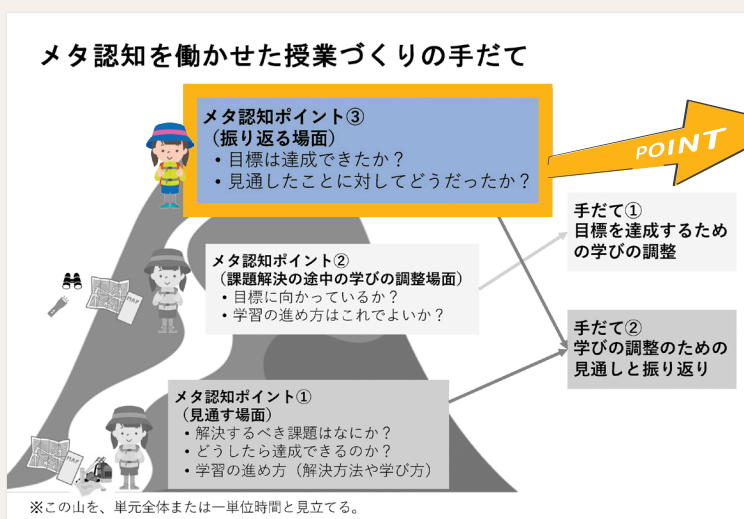
② 課題解決の途中の学びの調整場面



途中の学びの調整のポイント

- **目標に対する自分の現状把握**
目標に対して今の自分が、どの程度課題を解決できているのかモニタリングする。
- **よりよい解決方法の例示**
ゴールに近づいている友達の学び方を知る。
- **よりよい解決方法の選択**
この後の課題解決のために友達と話し合い、必要に応じて見通しを修正する。

③ 振り返る場面



振り返りのポイント

- **目標に対する自分の現状把握**
ゴールにたどり着くことはできたのか、できなかった場合はどの程度までたどり着けたのかを振り返る。
- **よりよい解決方法の抽出**
学習の見通しの立て方はどうだったかを振り返る。うまくいった方法はメモしておく。

3 各教科における実践例

(1) 国語科 第6学年「やまなし」

■ 本時のめあて

物語全体からメッセージを捉えて、短くまとめよう。

① 見通す場面



ゴールは、宮沢賢治の作品の魅力を紹介するカードをつくるのね。今日は、物語から受け取ったメッセージを考える時間ね。

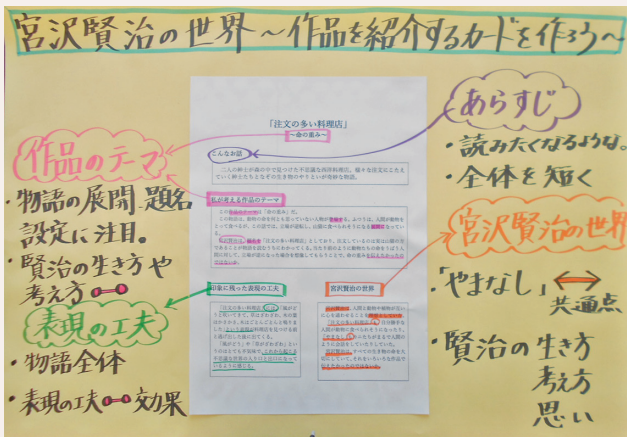


物語のメッセージってどうやって捉えたらいいのかな。やっぱり、物語全体から根拠になる文章を探すことが大事だね。

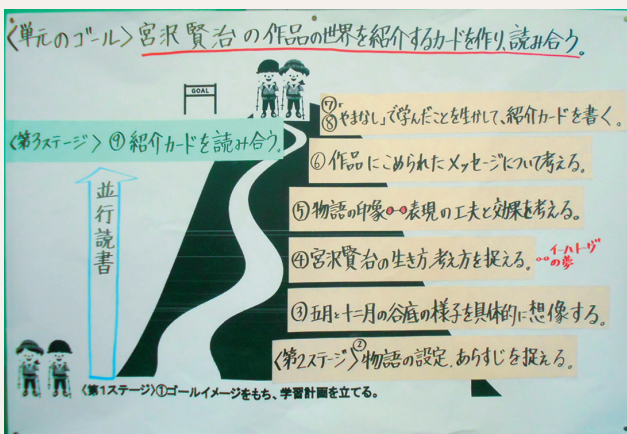


五月と十二月を比べて考えた学習も使えそうね。

ゴールイメージ



ゴールまでの道筋 (学習計画)



② 課題解決の途中の学びの調整場面

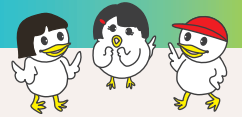


私は、五月と十二月を比べて「自然の厳しさと恵み」と考えたけれど、根拠に自信がないな。似た考えの人に聞いてみよう。



私は、かきの兄弟の様子から「生きる喜び」だと思ったけれど、違う考えも聞いてみたいな。

根拠や理由を比べて話し合う



友達が情景描写に注目してメッセージを考えていていいなと思ったよ。もう一度文章を読み直してみよう。

③ 振り返る場面



初めは難しかったけれど、対比して描かれている出来事に注目したらメッセージを捉えることができたよ。



情景描写に注目することもメッセージを捉えるコツだな。



メッセージを捉えるコツを使って、他の宮沢賢治の作品を読んでみよう。魅力を伝える紹介カードが書けるといいな。

(2) 算数科 第1学年「かたちあそび」

■ 本時のめあて

箱などの身の回りの具体物から形を抽象し、立体図形の特徴を知って分類しよう。

① 見通す場面



箱を積んでみたけど、うまく積めるものと積めないものがある。違いは何だろう？



共通点・相違点に着目する



ころころ転がる形を集めよう！空き缶とボールは同じ仲間かな？



全部平らな形を集めよう。平らな形には、真四角だけでできているものもあるよ。

ゴールまでの道筋（学習計画）を立てる



それぞれの箱の形にはどんな特徴があるのかな？



箱がどんな形に見えるかに気を付ければ、分かりやすく特徴ごとに分けられるかも！

② 課題解決の途中の学びの調整場面

自分で考える



ぼくは箱がどんな形に見えるかで分けたけど、これでいいのかな？

みんなで話し合う



もう一度自分で考える



箱の向きによって見える形が違うことが分かった！



同じ形がいくつあるか注目すると、もっと分かりやすいな！

③ 振り返る場面

自分の考えを伝え合う



なるほど！平らな面があるかどうかは、転がしたり、積み上げてみたりするとすぐに分かるのか！



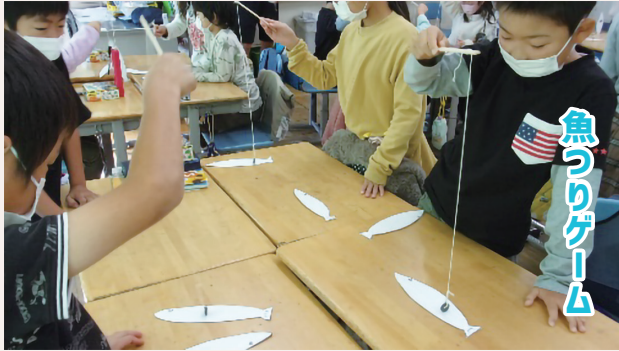
いろいろな箱を仲間分けできそう！

(3) 理科 第3学年「じしゃく」

■ 本時のめあて

磁石につく金属を予想し、実験をして磁石につく物とつかない物を分類しよう。

① 見通す場面



魚つりゲームで磁石にくっつく魚には、金属のクリップがついていた。「電気」の学習と同じように、金属は磁石とくっつくのかな？

問題をつくる



磁石にくっつくのは、やっぱり金属なのかな？

木とか紙とかプラスチックとか他の素材もやってみないと分からないな。



ゴールまでの道筋（学習計画）を立てる



電気のときみたいにいろいろな素材のものを調べて、本当に磁石にくっつくのは金属だけなのか確かめたいな。

② 課題解決の途中の学びの調整場面

みんなで話し合う



紙や木では実験したけど、鉄とかアルミとか金属の中でもいろんな素材でやってみないとはっきりと結果は分からないな…。



いろいろな種類の金属で実験してみよう！

③ 振り返る場面

自分の考察を伝え合う



磁石は金属につくと思っていたけど、つくのは鉄だけで、他の金属はつかなかった。



電気と磁石は似ているようで、性質は異なるのか！



1回目と2回目、自分の班ととなりの班の実験結果を「比べる」と分かりやすい！

(4) 体育科 第2学年「マットを使った運動遊び」

■ 本時のめあて

自ら動きを考えたり、友達の動きを真似したりして、遊び方を工夫しよう。

① 見通す場面

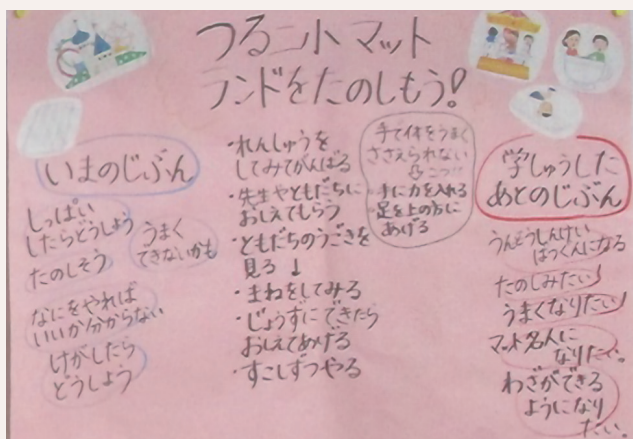


縦に回ったり横に回ったりして楽しい！



もっともっと楽しい鶴二小マットランドをつくりたい！どうしたら、楽しいマットランドになるのかな？

ゴールイメージをもつ



ゴールまでの道筋（学習計画）を立てる

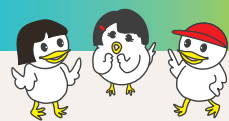


下のような視点をもてば、マットランドがもっと楽しくなりそう！

人数 姿勢 道具 スピード 向き

② 課題解決の途中の学びの調整場面

みんなで話し合う



もっとはやく回ってみたいな。

もっと楽しいコースにするためにはどうしたらいいかな？



スピードがついて回れるようにマットの下に台を入れたらいいと思うよ！

③ 振り返る場面

自分たちが考えたマット遊びを伝え合う



なるほど！そういう遊び方もあるんだな～！
ほくもやってみたい！
人数を増やしたり、道具を工夫して使ったりすることで、楽しみ方はいろいろあるんだな。

(5) 特別支援学級

「2年生みんなが楽しめる! えがおになれる! なかまつり」

■ 本時のめあて

お店を運営したり、お客になったりする体験を通してお店をよりよくするための工夫を考えたり、伝えたりしよう。

① 見通す場面

なかまつりの目的・ゴールイメージをもつ

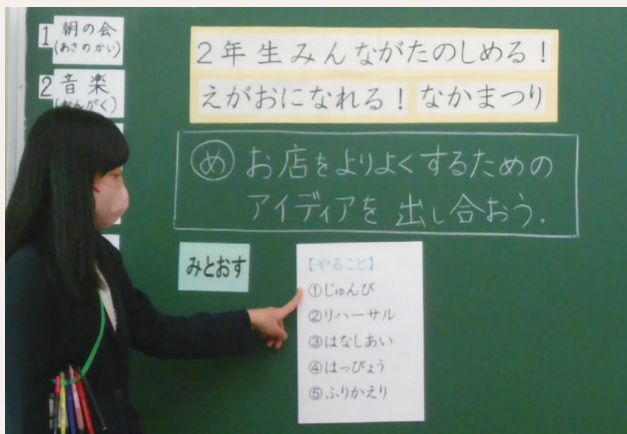


なかまつりで2年生に楽しんでほしい。
笑顔になってもらいたい。



2年生が楽しめるお店を工夫してつくり
たい!

ゴールまでの道筋(学習計画)を立てる



チームごとに準備をして、リハーサルをする



② 課題解決の途中の学びの調整場面



このまま2年生を招待しても、
なかまつりは成功するかな?

ルールがあいまいで
わかりにくいよ。



そうか!
では、ルールをはっきりさせよう!

なかまつり本番



③ 振り返る場面



2年生が楽しんで、笑顔になってくれた!



友達と計画的に準備をしてお店を出すこ
ができてよかった。



友達と意見を出し合うことで、自分たち
のお店の改善点に分かり、どんどんよい店
にしていくことができた。

4 成果と課題

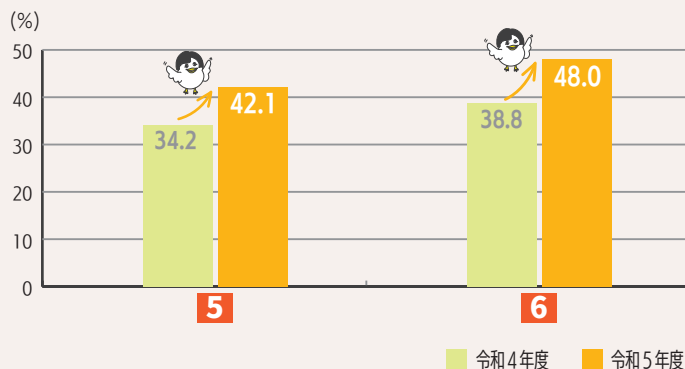
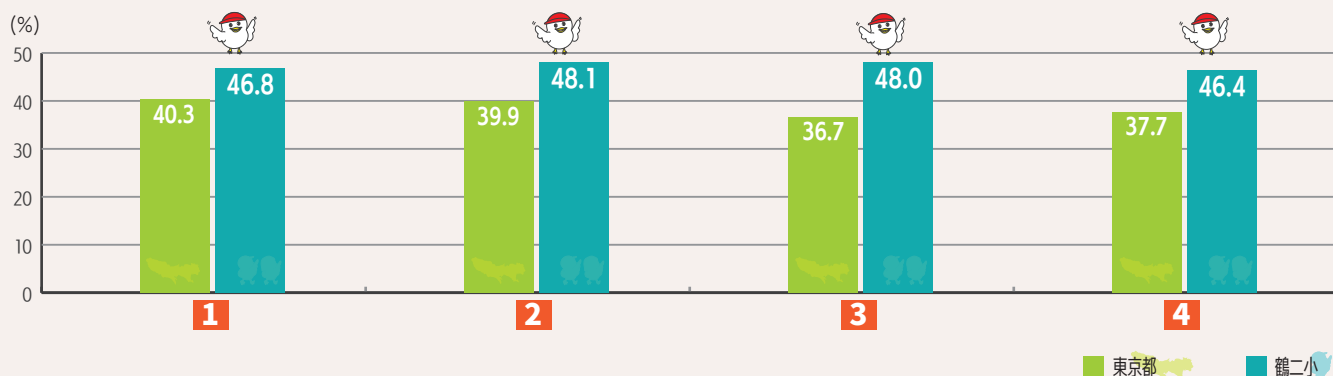
(1) 成果

① 児童の学びの姿勢が向上

令和5年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都)

「各教科における授業構成モデル」や「年間指導計画への位置付け」、「評価指標の作成」を通して、どのような児童を育てていくのかを共有し、組織的・計画的に授業改善に取り組んだことで、以下の調査項目について「当てはまる」と回答した児童の割合が東京都の平均を5～10ポイント上回った。

既習事項や身に付けた学び方を使って学習を進めることや他者との関わりの中でよりよく課題を解決することに关わる項目



東京都の結果に比べて肯定的な割合が高かった項目		鶴二小	東京都
1	分からないときは、ほかの人や先生に質問して解決している。【学習の進め方】	46.8%	40.3%
2	他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている。【学習の進め方】	48.1%	39.9%
3	自分で計画を立てて学習している。【学習習慣】	48.0%	36.7%
4	授業では、前の時間までに学習した内容と結び付けて考える時間があると思う。【学習指導の工夫】	46.4%	37.7%
本校における児童の顕著な変容 (前年度との比較)		今年度	昨年度
5	学習の途中で、分からないところやできないところはどこかを考えている。【学習の進め方】	42.1%	34.2%
6	自分で計画を立てて学習している。【学習習慣】	48.0%	38.8%

② OJT 勉強会を実施

これまでの研究実践から、教員にとって課題意識が高かった体育科の実践を、1学期に低・中・高学年の研究授業とOJTで勉強会を実施した。教科ごとの特性を踏まえた上で、よりよい学びの調整場面を明らかにしていくことができた。

(2) 課題

① 個への支援

「令和5年度全国学力・学習状況調査」(文部科学省) × 令和5年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都)

「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果で、正答率が低かった児童について都調査の授業の内容に対する理解の程度の結果を分析してみると、授業の内容は「よく分かる」と回答している児童が多い。つまり、「授業は分かりやすく、学び方もよく分かるが、正答率につながっていない。」という現状がある。そのため、知識や技能を定着させたり、活用させたりする力を付けるために、個別最適な支援を工夫する必要がある。

② 主体的に学ぶ姿の評価指標の作成と活用

児童がメタ認知を働かせ、よりよく課題を解決しているかどうかを客観的に評価することは難しい。学力調査は量的な傾向をつかむことはできるが、質的な見取りをどうするかは課題であった。そこで、国語・算数・理科で教科の特性に応じて主体的に学んでいる児童の姿を具体化し、「評価指標」を作成した。全教員が同じ視点で評価することができるようになったので、今後、全教科・領域で作成していきたい。